

BetterWriters

ImageWriter/StyleWriter/DeskWriter用ドライバ集



バージョン：1.0

開発元：米 GDT Software社

発売元：ブルーカーインターナショナル(問い合わせ先：03-5685-6636)

対応機種：MacPlus以上

対応システム：System 6.0.2以上、System 7.0対応

価格：1万1800円

個人向けプリンタの機能を大きく拡張するドライバ

BetterWritersは、Apple社のImage WriterシリーズとStyleWriter、HewlettPackard製のDeskWriterに対応するプリンタドライバ集だ。純正のドライバと同様にシステムフォルダに入れて、セレクトで選択すればすぐに使用できる。

市販のプリンタにはメーカー供給のドライバが添付されているから、オリジナルより優れていなければサードパーティ製品としての価値はない。BetterWritersは、オリジナルドライバでは実現できない機能をプリンタから引き出す製品だ。

パッケージにはフロッピーディスクが1枚入っており、5種類のBetterWritersドライバと専用フォント「BetterWriters Fonts」、Font/DA Mover、ReadMeファイルが収められている。ドライバは、ファイル名の末尾が対応するプリンタを示しており、I、IIおよびLQがそれぞれImage

Writer I、IIとII LQを示し、SWがStyleWriter、DWがDesk Writer用だ。BetterWriters FontsはImage Writerシリーズの内蔵フォントを使用する際の専用スクリーンフォント「Image Pro」と「Image LQ Pro」である。

表計算ソフトなどで大きなワークシートを扱う場合、縮小して1枚の用紙に出力して確認できるように縮小/拡大率の設定機能があると便利だ。LaserWriterなどのページプリンタは1%刻みで25%から400%まで標準で設定できるが、Image Writerは50%のみ、StyleWriterでは20%から100%まで20%刻みの設定しかできない。

BetterWritersをインストールすればLaserWriter並みに10%から400%まで1%刻みで設定できるようになる(図1)。

■設定/登録可能なペーパーサイズ
ImageWriterやDeskWriterでは、ハガキや図書カードといったドライバ

にないサイズの用紙を使おうとするとアプリケーション側でフォーマットを調整しなければならない。

BetterWritersは、用紙サイズを8種類まで登録できるカスタムペーパー機能を装備しており、これらの用紙サイズにも対応できる(図2)。

ResEditやPDSのプリンタユーティリティReady Set Up!を利用して用紙サイズを書き換える方法もあるが、ドライバから設定できる方が便利だし初心者でも安心だ。また初期設定の用紙サイズは変更できるので、A4にしておけば印刷のたびに用紙サイズを設定しなおす手間も省ける。

■両面印刷を可能にする奇数/偶数ページ指定印刷

最近紙の両面にコピーできることが資源保護の目的で奨励されているようだが、それは別にしても実現できないにこしたことはない。BetterWritersでは、奇数ページと偶数ページを指定して印刷できるので、先に奇数ページを印刷し、印字面を裏

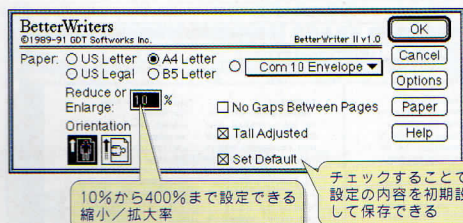


図1 用紙設定ダイアログ。拡大縮小の指定が細かく行なえる

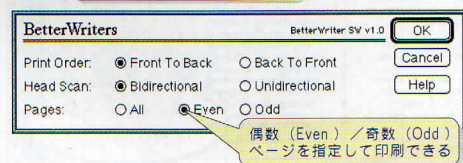
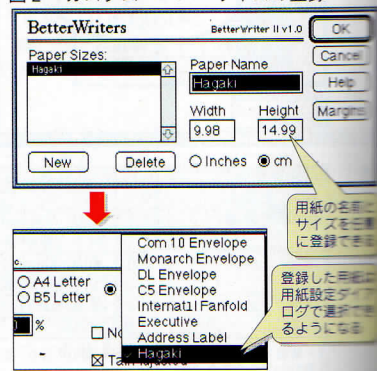


図3 BetterWriters SWのプリントオプションダイアログ

図2 カスタムペーパーサイズの登録





面にして偶数ページを印刷すれば簡単に両面印刷ができる(図3)。

StyleWriterなどのQuickDrawプリンタは、グレースケールの印刷は解像度72dpiの画面イメージのままが原則だが、BetterWritersはグレースケールパターンを再現できる。これは、グレースケールをマッチングさせるパターンを豊富にもっているからで、SuperPaintやUltraPaint、Canvasといったグレースケールを%で指定できるグラフィックソフトを使えば、かなりなめらかなグレースケール印刷ができる(図4)。しかしスキャナで読み込んだ写真などの階調表現は再現できない。

■内蔵フォントを使った高速印字

ImageWriterとDeskWriterは内蔵フ

ォントを持っているが、これを有効に使う方法はあまり考慮されていなかった。BetterWritersは専用のスクリーンフォントを使い、DraftモードでもImageWriterシリーズとDeskWriterの高品位内蔵フォントでレイアウトされた画面イメージに極力近い状態で高速印字できる(図5)。英文の手紙を日常的に作成している現場では重宝する。

■オリジナルのドライバと共存させて、用途に応じた使い分けが必要
総じて安定感もあり、普段はBetterWriterだけインストールしておけば用はたりる。資料には、オリジナルのドライバより印字が高速とあるが、確かに若干であるが印字速度は速いので、長らくバージョンアップされ

ていないImageWriter(とくにII LQ)ユーザーにはおすすめしたい。漢字ATMや漢字TrueTypeの発表で、にわかにその利用価値が高まったパーソナルプリンタだけに、サードパーティからユーティリティが発売されることはユーザーにとって喜ばしいことだ。ただし、AppleTalkに対応していないことと、バックグラウンドプリンティング機能を持たないことから、プリンタによってはオリジナルのドライバと使い分ける必要もでてくる。開発元では、プリントスプーラとしてSuperLaser Spool(\$149.95 米Fifth Generation Systems社)を推奨しており、AppleTalkへの対応はユーザーの要望次第で考慮するという。

(後藤啓次)

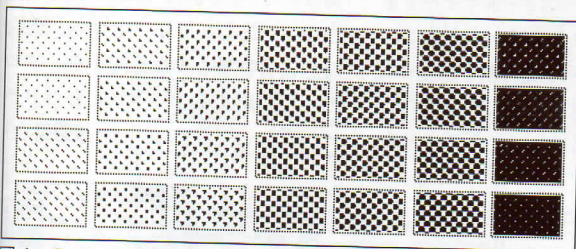


図4 BetterWritersのグレースケール用マッチングパターンの例。このようなパターンが64種類あるので、ハーフトーンのデータもきれいに再現する。ImageWriterやStyleWriterのドライバにはパターンはなく、DeskWriterは50%に相当するパターンのみだ



図5 BetterWriter IIのプリントダイアログ

疑似グレースケール階調表現のテスト(左から右へ、0%~100%まで5%刻みで指定)

BetterWrite IIを使ったStyleWriterからの出力サンプル

BetterWrite IIを使ったImageWriter IIからの出力サンプル

ImageWriter IIのオリジナルドライバのサンプル